



## Minami-hatoba\_1(Shirouyasu\_Suzuki)

2007-03-31

部屋の片づけを手伝う。

30日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、身体の予想的な反応について書いてあった。初めてした注射が痛かった場合、次に注射をするとき痛いとおあらかじめ決めて反応するということだ。庭の山吹が一輪咲いているのを見つけ撮る。仕事場に行って、日録をノートした後、[その一輪咲いた山吹の花](#)をBlosxomblogに入れる。メールやmixiを見たり、麻理が探してくれた「腰部脊柱管狭窄症」についてのHPを見たりする。1時前に野菜天ぷら蕎麦で昼食。銀行へ行く麻理に振り込みと現金を下ろしてくるのを頼む。仮眠。「はぐれ刑事純情派」を見ているうちに眠ってしまう。3時頃起きてコーヒーを淹れて飲む。麻理が帰ってきてお金の話をする。仕事場に行って、薦田愛詩集『流離縁起』の4番目の詩「肉鞠」を読む。内容は、話として、引き立てられて馬を巡らせるような広場に行き、黄色い布が翻るのを見て、呪縛が融けて、連れだった人たちと、精が付くものを食べるのがいいと言うことになり、2軒並んだ料理屋の左の店に入り、八つ目の円卓につくと、薄茶色のひしゃげた球形のものが大皿にのせられて運ばれてくる。それは構合のさなかのカエルをそのまま醤油と油で煮たもので、とても食べられるものではない。いつの間にか隣の席にいる母が食べようとするのを一途に拒み続ける、という、散文詩だった。その後、明日見に行く、清水邦夫作『ライフライン』を読む。7時過ぎに野菜や豆腐などが入った七色ビーフン炒めを麻理が作って夕食。仮眠。テレビの水泳と野球を行ったり来たり。巨人が勝ち、北島が金。居間に降りると、麻理が部屋を片づけて、そこにあったネジで組み立てられた机を、野々歩が使っていた狭い部屋に移すのに、ドアを通すために解体して、移してから組み立てるといので、手伝うが脚が痛くて思うように出来ない。それから風呂に入る。出て、林檎1個、焼き芋1切れ、一口羊羹1個を食べて、温めた牛乳を飲む。菓とサブリメント。仕事場に行って「灰皿町blog日記」書く。

00:45:44 - shirouyasu - No comments

### Navigation

[Previous 月](#)  
[Next 月](#)  
[Today](#)  
[Archives](#)  
[Admin Area](#)

### Categories

[All](#)  
[General](#)

灰皿町の本

●[幻想小説『なめくじキーホルダー』](#) [清水鱗造](#)

●[「週刊読書人」詩時評一九九二-一九九三年](#) [清水鱗造批評集 第二分冊](#)

### Search



2007-03-30

井上クリニックで「加圧リハビリ」を始める。

29日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、言葉を覚える前の記憶は符号化されていないので、言葉という「釣り針」で引っかけて引き出すことが出来ないの、なかなか修正できないと書いてあった。今朝は7時に起きて、朝食、朝刊、トイレと済ませて、Blosxomblogに[膨らんできた君子蘭の蕾](#)を入れて、9時半に麻理と一緒に家を出て、自転車で代々木上原駅に行き、千代田線で北千住乗り換えで東武竹ノ塚駅で下車。タクシーで井上クリニックへ行き、11時前に着く。受付で健康保険証を忘れてきたのに気がつく、おやおや、というところ。整形外科の早川医師の診断を受ける。股関節をいろいろと動かして、「大腿骨骨頭壊死症」の反応が弱いので、MRIとレントゲンを撮ることになり、股関節と腰椎の両方を撮る。そして診断した結果、「腰部脊柱管狭窄症」はかなりひどいが、「大腿骨骨頭壊死症」の方は初期症状のようだという診断で、「加圧リハビリ」はやってみようということになる。希望が出て来た。そして、道を一挟んだ隣の井上病院のリハビリ室で「加圧リハビリ」を始める。圧縮バンドで両脚太股を縛り、180以下の圧力を加えて、両脚の膝でボールを挟んで押さえる運動を30回、両膝をゴムで結んで広げる運動を30回、それから自転車のように両脚で漕ぐマシンで5分間こぎ続けて終わった。早川医師も看護師さんも医療技師の人たちも熱心で気持ちよい対応してくれた。会計を済ませて、タクシーを呼んで竹ノ塚の駅へ行き、駅ビルで麻理と二人でスバゲティを食べる。2時半頃の電車で、西新井で半蔵門線に直結してる急行

に乗り換えて表参道で下車。麻理が拾ってくれたタクシーでイメージフォーラム付属研究所へ行く。4時からの会議に間に合う。来年度31期生の授業の持ち方について話し合い。「手で探り独自のものを作り出す」というようなことが話された。それから、近くのフランス料理屋で、事務局と講師の懇親会。9時廻ってタクシーで帰宅。疲れて30分ぐらいベッドで横になって、麻理と井上クリニックはよかったと話し合う。それから、風呂を沸かして入る。出してから、テレビのスポーツニュースを見ながら林檎1個、焼き芋1切れ、一口羊羹を食べてから、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。

01:22:45 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-29

チェーホフ作『桜の園』を読む。

28日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、「上/下」と言う譬喩の表現は重力を基にした身体感覚によると書いてあった。チェーホフの『桜の園』の第一幕を読む。[プランターのカタバミの花](#)をBlosxomblogに入れる。1時半頃、麻理がかき揚げ天ぷら蕎麦を作って昼食。仮眠。今日も選抜高校野球と「はぐれ刑事純情派」を行ったり来たりする。3時過ぎにコーヒーを淹れて飲む。仕事場に行くと、薦田愛詩集『流離縁起』の3番目の詩「細片回収」を読む。忘れないうちに、ご飯を炊く。それから『桜の園』の第二幕、第三幕、第四幕と読む。内容は、没落地主の夫人が、自分の浪費癖で嵩んだ借金を返すために、代々引き継いできた「桜の園」と屋敷を、農奴からは上がった男に売って去っていくというもの。彼女の世代は悲しむが、娘の世代は自由な身の上になったと喜んで。タイトルに「喜劇 四幕」とあった。居間に行って夕刊を見る。豆腐とワカメのみそ汁を作ってテレビを見てみると、麻理が刺身を買って帰ってきて夕食。食後、寝室のベッドに横になって、サッカー日本対シリアを見る。日本が3対0で勝つ。仕事場に下りて、「細片回収」の粗筋を書いてみるがうまく書けない。敢えて書くと、マツユキソウサガシテコイ、いや、「わたし」という器からこぼれた自分のかげらを探してこいと言う声に従って部屋から出るが、出たところは知らない町で、雨の中、踊り場で染みついたわたしのしらない「わたし」を爪で剥がし、さらに「漏れ出た息」「なくした鉛筆」などいろいろな自分を探し、石畳をはいまわるが、雨に煙る硝子色に染まっていく、となる。「声」と、成り行きを書く「私」と、書かれる「私」の三つの言葉の主体が交錯して展開する構成になっている。10時半を廻って風呂に入る。出してから、林檎1個、焼き芋1切れ、一口羊羹1個、煎餅小2枚を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書く。

00:02:31 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-28

行く予定だった井上クリニックに行かなかった。

27日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、「民主主義」という単語を発音するときには暖かい口調になるが、「犬肉」という単語では、犬の肉を食べる習慣のない人たちには「うえっ」という感じになる。つまり、どんな言葉も情動や身体感覚に響く価値があるという。今日の午後は、井上クリニックに加圧トレーニングの診断を受けに行くことになっていたが、電話で聞いたら、加圧リハビリの診断をする医師が午後は休診ということで、行かなくなった。昼前に粉川美耶子さんから京都の名物焼き芋屋の「なると里浦の里むすめ」という焼き芋が送られてきた。ありがとう。彼女にお礼の手紙と、青山佳世さんにメール。Blosxomblogに[昨日咲いてもう萎れたハイビスカスの花](#)を入れる。1時過ぎに麻理がきこの蕎麦を作って昼食。仮眠。また、選抜高校野球と「はぐれ刑事純情派」を行ったり来たりしてうとうとする。仕事場に行くと、Webで大腿骨頭壊死症で加圧リハビリをやっている人のサイトをいろいろと見る。それから、薦田愛詩集『流離縁起』の2番目

### Login

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

Powered by



の詩「海駅」を読む。擬古文的な独特の文体で書かれた散文詩で、イメージとしての内容は、鉄道で旅をしていて、ふっとここからは船旅で行こうと思いついて、下車して、地下道を行くと、「磯」と標示されたプラットホームがあったが、待つ人の気配も物音もしない。その片側に「装」という標示。そこには陸路の塵に汚れた衣服を着替えさせられている人々がごった返しているのかと想像する。しかし、階段を上ると、そこには貫頭衣に頭巾を深く被った人々が項垂れて立っていて、一斉に身を震わせ、臉が震えた。それは声を出すことを許されたない「哭き女」たちだった。と見る間に女たちの身体は崩れて腐れ揮発して消えて、貫頭衣が吹き寄せられた砂っぽいプラットホームには誰もいなくなった。船はもう来ないのかも知れないと思い、戻ろうとしたが、地下道に行く階段の入り口を見失って、古布に堅く包まれた皺が寄った肉体になっていた、というもの。6時頃、居間に行って、「里むすめ」の焼き芋を一切れ切って食べながら夕刊を読む。7時過ぎに、麻理が納豆オムレツとみそ汁を作って夕食。食後、仮眠。NHKの自然もの番組を見ていたが眠ってしまう。9時過ぎて、仕事場に行って、「海駅」の粗筋を書いてみる。粗筋を書くと、イメージとは別に、使われている言葉が返って浮き上がってくる。10時半廻って風呂に入る。出てから、林檎1個、焼き芋1切れ、団子1串、煎餅1枚を食べ、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に戻って、「灰皿町blog日記」を書く。

00:10:28 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-27

薦田 愛詩集『流離縁起』の再読を始める。

26日に朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、精神と身体を結ぶ道筋についての学説が紹介されていたが、よく理解できなかった。神経系と免疫系の結びつきと、神経伝達物質やホルモンなどの働きが関係するということだが、専門語が多くてよく理解できなかった。日録ノートした後、mixiやメールを見て、コメントや返事を書く。1時過ぎて長ネギとキノコの煮込み蕎麦を作って昼食。仮眠。テレビの高校選抜と「はぐれ刑事純情派」を行ったり来たりしているうちに眠ってしまう。3時半過ぎてコーヒーを淹れて飲む。昨日[イメージフォーラム付属研究所の卒業式で貰ってきた花束](#)をBlosxomblogに入れる。eMacのMacintosh HDを外付けHDDにバックアップする。それから、薦田 愛詩集『流離縁起』の再読を始め、最初の詩「出立」を一編読む。この世でもあの世でもない何処か言葉の空間に向かう旅に出るといふことらしい。6時半過ぎてハンバーグを焼く前にジャガイモと玉葱を煮て添え物にする。それからキャベツのみそ汁を作る。そこでご飯がないのに気がついて米を研いで炊飯器のスイッチを入れる。夏みかんを食べながら夕刊を読む。ご飯が炊けて、ハンバーグを焼き、みそ汁とで夕食。食べ終わったところに麻理が帰ってくる。スパゲッティを食べてきたという。仮眠。水泳をうとうとしながら見る。9時廻って仕事場へ。mixiのメッセージとメールに返事。多摩美の2003年度生の謝恩会に送ったメッセージで目頭を熱くしたという内容が三つ来た。わたしの思い入れが伝わったみたい。11時頃風呂に入り、出てから、林檎1個、薩摩芋小2切れ、最中1個、煎餅2枚を食べ、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。朝呑まなかった痛み止めを飲む。仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。

00:37:27 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-26

イメージフォーラム付属研究所の卒業式に行く。

25日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、「いいもの」というのは食物、セックス、仲間と一緒にいる、ということで、「悪いもの」の代表は苦痛で、その苦痛と合わせて条件付けなどが行われるという。昨日作品を見た青山佳世さんに作品の感想などを書いてメールで送る。麻理ときつね蕎麦で昼食。仮眠。テ

レビを点けて、高校野球中継を耳で聞いてうとうとする。3時廻って起きて、[雨に打たれて枯れた水仙の花](#)をBlosxomblogに入れる。4時前に家を出て、社会教育館前でタクシーを拾ってイメージフォーラムへ。4時半から卒制作品の最優秀作品賞などを講師が討論して決める。高野美奈子作品『blue』が最優秀作品賞になった。5時半から卒業式で講師が一人一人話をする。7時近く、宮益坂裏のウエストに移って卒業コンパ。そこまで歩くのが、わたしにはきつかった。9時過ぎまで10人の卒業生たちとそれぞれの作品について話して、タクシーで帰宅。疲れて30分くらい横になる。それから、お茶漬けを食べて、BSで「風林火山」を見て、風呂に入る。出てから、林檎1個、薩摩芋1切れ、一口羊羹1個、煎餅2枚を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に行って、「灰皿町blog日記」を書く。

00:56:43 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-25

青山佳世作品『合縁奇縁 他生之縁 ここは山根 四号組』のテープを見る。

24日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、「いいもの」というのは自分を満足させるもので、「悪いもの」は自分に害を与えるものを基本にしていると書いてあった。風呂場の排水口を麻理と二人でちょっと直す。[曇りで花びらを開かない庭のカタバミの花](#)を撮ってBlosxomblogに入れる。かき揚げ天ぷら蕎麦で麻理と昼食。仮眠。「久米宏から日本人へ」という番組で、スポーツ根性ものしごきに使われたうさぎ跳びが今はもうやられてないということ。3時半頃コーヒーを淹れて飲む。仕事場に行って、青山佳世作品『合縁奇縁 他生之縁 ここは山根 四号組』の2本目のテープを見る。昨日見た1本目と合わせて、煙草の栽培と牛の肥育をやっている70歳になる農婦の生活を一年間追ったドキュメンタリー作品。5時頃居間に行って「大相撲中継」を見る。朝青龍が白鵬に勝って共に12勝2敗になった。7時過ぎに肉とニラを炒めものとみそ汁で夕食。仮眠。ダウン症の青年の生き方と100歳のおばあさんの生活を扱った3チャンネルの番組を見る。それから「フィギュアスケート世界選手権」の女子シングルを見る。安藤美姫が金、浅田真央が銀。風呂に入る。出てから、林檎1個、シュークリーム半分、一口羊羹1個、煎餅小1枚を食べて、温めた牛乳を飲む。仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。

01:06:13 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-24

三浦淳子作品『空とコムローイ第二部』を見終わる。

23日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、「民主主義」などという抽象的な言葉も、それが「いいもの」として情動に反応して、身体に結びついていると書いてあった。高校野球選抜の第一試合の一回だけ見て、仕事場に行って、日録ノートしてから、[バラの若葉と蕾](#)をBlosxomblogに入れる。三浦淳子作品『空とコムローイ第二部』の2本目のテープを見る。この第二部は「マザー」と副題がついていて、エイズでなくなったユイという女性の幼い娘ファガ、ノイという施設の運営を手助けする女性の世話で、小学校に入学して寮生活をするようになるまでを、日本からタイに何度か訊ねて記録した作品だった。1時半頃、かき揚げで天ぷら蕎麦を作って昼食。仮眠。「はぐれ刑事純情派」でうとうとする。3時過ぎに起きてコーヒーを淹れて、高校野球を見ながら飲む。仕事場に行って、『空とコムローイ第二部』の感想を書いて三浦さんにメールする。5時頃居間に行って、黒豆茶を飲みながら「大相撲中継」を見る。豊ノ島、スピードで黒海に勝つ。また仕事場に行って、青山佳世作品『合縁奇縁 他生之縁 ここは山根 四号組』の一本目のテープを見る。7時頃、麻理がイワシを焼いてみそ汁とで夕食。仮眠。眠る。9時頃居間に行き、「フィギュアスケート世界選手権」の女子シングルを見る。浅田選手、回転失敗でがっかり。10時過ぎ風呂に入り、出てから林檎1個、薩摩芋1切れ、

シュークリーム四分之一、煎餅1枚を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に行き、「灰皿町blog日記」を書く。

00:28:14 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-23

辻和人さんのHPの「<錨>日々の感想」を昨年一昨年と遡行する。

22日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、手と口の密接なつながりは、言葉の表現にも表れていると書いてあった。時間の表現として「過ぎる」「近づいてくる」など、また人の性格などで「裏表がある」など、手元の空間になぞらえているというわけである。庭に水を撒き、枯れた椿の花を撮る。仕事場に行き、昨夜多摩美の4年生の下司さんから謝恩会にメッセージが欲しいというメールが着てきたので、2003年度入学の皆さんの、入学したばかりの頃の顔写真を見て、そのメッセージを書いて、メールで送った。2003年度生は、入学試験から3年生になるまで、毎年ゼミなどでつき合っていたので、思い入れも強い。1時頃、カレー蕎麦を作って昼食。仮眠。眠る。3時過ぎに起きて、コーヒーを淹れて飲む。仕事場に行き、昨日イメージフォーラムで会った辻和人さんが感想を書いてないかと彼のHPを覗く。書いてなかったが、その「<錨>日々の感想」を昨年一昨年とあらたかた書いてあることを辿って見る。読んだ本や聴きに行った演奏会や見に行った演劇の感想が書いてあるだけなのだが、その対象としていることなどから辻さんのイメージが出てくると、わたしと会った時のことやわたしの映画や写真展を見た感想も書いてあったので、わたしと交錯する時があって、記憶がたぐり寄せられて、面白かった。5時過ぎに居間に行き、「大相撲中継」を見る。6時過ぎにまた仕事場に戻り、無惨に枯れた椿の花をBlosxomblogに入れる。昨日見たイメージフォーラムの卒展の作品のメモをリストに書き込む。もうどういう作品だったか思い出せないのもあった。7時頃、カレーを温めて、トマトを切って、一人で夕食。食後、寝室のベッドに横になって「国際フィギアスケート」の男子の部を見る。高橋選手が銀メダルを取った。メモをリストに書き込むのの続き。10時半廻って風呂に入り、出てから、林檎1個、薩摩芋1切れ、一口羊羹、煎餅3枚を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に戻り、「灰皿町blog日記」を書く。

00:34:00 - shirouyasu - 2 comments

## 2007-03-22

イメージフォーラム付属映像研究所の今年の卒展4プログラムを見る。

21日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、人間が進化する過程で手と口のシステムが内部化したのが発声の器官だと書いてあった。日録ノート。三浦淳子作品『空とコムローイ第二部』の一本目のテープを見て、12時前にカレーで早めの昼食を食べる。12時過ぎに家を出て、坂の下でタクシーを拾ってイメージフォーラムへ。1時から「イメージフォーラム付属映像研究所2006年度卒業制作展」のアニメのDプロから見始めて、3時からCプロ、5時からBプロ、弁当をご馳走になって、7時からAプロを見て、全部で長短違わせて44作品を見た。ちょっとした話を作る作品が目立った。会場に詩人の辻和人さんが来ていて挨拶する。見終わった後、村山さんと富山さんとお茶を飲みながら雑談して、9時半前にタクシーで帰宅。伊予柑を食べて、仕事場に行き、庭に一輪咲いた黄色いカタバミの花を入れて、今日見た作品のリストを作る。それから風呂に入り、出てから、スポーツニュースのフィギュア男子の結果を見ながら、林檎1個、薩摩芋1切れ、一口羊羹1つ、煎餅2枚ほどを食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に行き、「灰皿町blog日記」を書く。

00:57:57 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-21

三浦淳子作品『空とコムローイ第一部』を見る。

20日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、脳の言葉を発する領域と、手を動かすための領域が近いことの意味合いが書かれていた。ジェスチャーや手話はそのことによるということだ。[室内で満開のカタバミの花](#)を撮って仕事場に行き、日録ノートしてから、Blosxomblogに入れる。チャーホフの「桜の園・三人姉妹」（新潮文庫）の解説を読む。チャーホフが『三人姉妹』を書き、『桜の園』を書いて44歳で死んだということを知った。薩摩芋の天ぷら蕎麦を作って昼食。仮眠。「はぐれ刑事純情派」を見る。3時過ぎにコーヒーを淹れて飲む。仕事場に行き、三浦淳子作品『空とコムローイ第一部』（2000～2001）の2本のテープを見る。ほぼ100分の作品で、タイの北部の都市メーサイにある「山の民アカ族の子どもたちの寮」を、友人から話を聞いて訊ねて、そこで生活する子どもたちと、世話をする大人たちと、主催するペンサ神父の姿と、アカ族の風俗を記録したドキュメンタリー作品。事情があって収容されている子どもたちだが、その伸び伸びとした生活振りや、エイズで母親を失った幼い子のあどけなさや、神父の謙虚で誠実な人柄に心を引かれた作者が、2度3度と訪れて撮影した作者の気持ちが伝わってくる作品になっている。5時半ごろ居間に行き「大相撲中継」を見る。朝青龍と取り組んだ琴光喜、惜しい。カレーを作って、飯を炊き、7時半過ぎに夕食。仮眠。「学校に行こうMAX」でパリコレに出る女の子とローザンヌ国際バレエコンクールに参加した女の子を見る。ちょっと眠る。9時半過ぎて仕事場に行き、『空とコムローイ第一部』の感想を書いて、三浦さんにメールで送る。11時頃風呂に入る。出てから、帰ってきた麻理と話ながら、林檎1個、薩摩芋1切れ、大福半分、煎餅2枚を食べ、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。痛み止め止めると痛みが出るのがっかり。また仕事場に戻り、「灰皿町blog日記」を書く。

01:11:52 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-20

三浦淳子作品『江口先生、こんにちは』の2本のテープを見る。

19日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、行動的な相互作用のできなものは意識できない。漁師が空の色の微妙な変化を意識できるのは、その色の変化で船や漁のいろいろな行為ができるからだとして書いてあった。庭に出て萎れてきた水仙の花を撮る。10時過ぎに、家を出て坂の下でタクシーを拾って、青山病院の前の青山薬局へ行き、金曜日に忘れ来たMRIやレントゲンの写真の入った袋を受け取って、そのタクシーで渋谷駅に行く。地下のFoodShowの高野で紅茶を買い、ウナギ弁当と大福を買い、タクシーを拾って帰宅。地下街をちょっと歩いただけで右脚に負担が掛かって痛くなる。買ったウナギ弁当の三分之一を麻理が食べて出掛ける。仕事場に行き、『萎れてきた水仙の花』をBlosxomblogに入れる。

「チャーホフ一幕物全集」の解説を読む。チャーホフは笑いに価値を置いていたと書いてあった。1時過ぎに、インスタントみそ汁とウナギ弁当の三分の二で昼食。仮眠。「はぐれ刑事純情派」をうとうとしながら見る。3時過ぎにコーヒーを淹れて飲む。仕事場で、三浦淳子作品『江口先生、こんにちは』のテープ[1]を見る。5時過ぎに居間に行き「大相撲中継」を見る。栃東2敗。膝が痛そう。また仕事場に戻り、『江口先生、こんにちは』のテープ[2]を見る。麻理がトンカツを買い帰ってきて、キノコの入ったみそ汁を作って一緒に夕食。仮眠。「浅草ふくまる旅館」を見る。仕事場へ行き、『江口先生、こんにちは』についての感想を書いて、メールで送る。作品は、耳の不自由な子が集まっている「たけのこクラブ」を主催している90歳の江口タマ先生と子どもたちとボランティアの人たちを記録したドキュメンタリー作品。10半回って風呂に入る。出てから、林檎1個、薩摩芋1切れ、大福半分、煎餅1枚を食べ、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に戻り、「灰皿町blog日記」を書く。

00:30:07 - shirouyasu - No comments

**2007-03-19**

チェーホフの「一幕物全集」（岩波文庫）を読み終える。

18日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、概念としては、「それが何か」というより「それをどうする」というように組み立てられているという。消しゴムを見ると脳の中ではそれを手で使うという「活動計画」が生まれるが、それは意識には昇らないで、実際に使うときに意識されるという。庭に出てスマレが咲いているのを見つけて撮る。仕事場に行って日録をノートする。メールを開くと、大平さんから「映像演劇No.2」の割付が変わったので確認して欲しいというメールとわたしの文章のPDFファイルが送られてきたので、プリントして読むと、訂正箇所が4つあったので、訂正のメールを送る。2時頃、麻理がスパゲッティミートソースを作り、一緒に昼食。仮眠、眠る。3時からからベッドで「大相撲中継」の十両の取り組みを見る。コーヒーを淹れて飲んで、午前中にテレビで見た作庭家・重森三玲のことを思い出して、庭にある二つの石を家の中から見えるところに持ち出す。もっと大きな石が欲しいと思う。「大相撲中継」を見る。栃東負ける。仕事場に行って、[庭に咲いたスマレの花](#)をBlosxomblogに入れる。7時頃、麻理が卵ハンバーグを焼いて、みそ汁とで一緒に夕食。ベッドに横になって、「ダーウィンが来た」と続けて「風林火山」を見る。仕事場を下りて、チェーホフの「一幕物全集」の、別荘を持った男が仕事と頼まれた買い物と妻の合唱練習に悩まされて気が狂うという『余儀なく悲劇役者』と、披露宴に金を払って將軍を呼んだら、挨拶代わりに船の帆柱操作の話ばかりするただの海軍の退役軍人だったという『結婚披露』と、銀行の記念日に頭取の妻と紛れ込んで来た金をせびる老女に悩まされておかしくなる銀行員を描いた『記念日』を読んだ。それぞれ手に負えないことで頭がおかしくなる人間という筋立てだった。これで「一幕物全集」（岩波文庫）の作品を全部読み終える。11時頃風呂に入る。出てから、麻理の授業計画の作成をちょっと手伝いながら、林檎1個、薩摩芋小1きれ、カステラ1切れ、煎餅2枚を食べて、温めた牛乳を飲む。葉とサプリメント。仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。

01:33:51 - shirouyasu - No comments

**2007-03-18**

見木君と細井さんが見舞いに来てくれた。

17日の朝、トイレで『脳と意識の地形図』は読まなかった。居間に掃除機を掛けてから、三つ目のハイビスカスの花を撮って、仕事場へ行き、日録ノートする。それから、「チェーホフ一幕物全集」（岩波文庫）の『結婚申込』を読んだ。内容は、隣家の娘に結婚を申し込みに来た男が土地の所有権のことで当の娘と喧嘩になり帰り掛け、結婚申し込みに来たと知った娘が呼び戻し、今度は犬の自慢で喧嘩になり興奮して気を失い、気がついて結婚の承諾を得るというもの。昨日麻理が買ってきたコロッケで一人早い昼食。食後、仕事場でチェーホフの『路上』を読んでいると、今日来ることになっていた多摩美の卒業生の見木君から電話があり、環七が混んでいて遅れるという。それから、近くに来て、また電話で道順を誘導して到着する。細井さんも一緒に来た。お見舞いのカステラを貰う。見木久ヲ君は多摩美在学中から、わたしの映像作品の音楽をいつも作ってくれている人だ。勤めのことや卒業した後のクラスメートのことや在学中のことを話して、4時頃帰った。細井さんがハイビスカスの花を手で軽く触った姿が印象的だった。彼らが帰った後、カステラを一切れ食べ、『路上』を読み終える。内容は、街道筋にある酒場にたむろする浮浪者や巡礼や身を持ち崩した男など話で、女のために身を持ち崩した男の、その女が立ち寄って再会するが、女に相手されない、というもの。5時廻って、夕刊を見ながら、「大相撲中継」を見る。栃東7連勝。7時頃、麻理が餃子を焼いて、刺身とみそ汁で夕食。仮眠、眠る。9時過ぎに仕事場を下りて、『煙草の害について』と『タチヤナ・レーピナ』を読む。前者は、題名の演題での演説だが、話の内容は音楽学校を経営管理している妻の悪口と自分の立場の弁明に尽きるというも

の。後者の内容は、身動きできないくらいに人の集まった教会の結婚式で、延々と続く祈祷にうんざりして私語したりして、終わった後、振られた女が教会内で毒を煽るというもの。午前中に外に出た猫が夜になっても帰ってこないの、麻理と心配していたが、10時頃、玄関のドアを開けたら、さっと飛び込んで来て、安心した。[三つ目のハイビスカスの花](#)をBlosxomblogに入れる。11時前に風呂に入る。出てから、林檎1個、薩摩芋1切れ、角きんつば半分、煎餅小2枚を食べて、温めた牛乳を飲む。仕事場に下りて「灰皿町blog日記」を書く。

01:03:48 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-17

今日は病院デーだった。

16日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、行動と意識の複雑な関係のことが書いてあって、すんなりと飲み込めなかった。血圧降下剤が明日で切れるのに気がついて、麻理は出掛けてしまっていて頼むことが出来ず、自分で小林医院に行くしかないと決めて、思い切って自転車に乗って行くことが出来た。3ヶ月振りの自転車だった。血圧測定などして、処方箋を貰い、慶応堂薬局で薬を買ってから、パルケに行って、うるめの丸干し、タラコ、野菜の天ぷら、おにぎり2個、一口羊羹など買って帰る。3ヶ月振りにパルケで買い物。帰って、Blosxomblogに[あじさいの若い葉](#)を入れる。おにぎり2個で昼食。1時過ぎに家を出て、坂の下でタクシーを拾って青山病院へ行く。2時過ぎに整形外科の小澤医師の診断。薬で痛みが取れてきているので、痺れの薬だけ抜いて、薬の療法を続けることになる。小田切病院とは違う加圧リハビリをやっている井上クリニックの医師宛の紹介状を書いて貰い、MRIなどの写真を借りる。病院前の青山薬局で薬を買う。このとき、借りた写真を忘れたのに気がつかずタクシーで帰宅。帰って、仮眠していると青山薬局から電話があって、写真を忘れてきたのを知らされる。月曜日に取りに行くことにする。居間に降りて、コーヒーを淹れて飲みながら、「大相撲中継」を見る。栃東6連勝。仕事場に行って、日録ノート。それから、米を研いで炊き、また大根のみそ汁を作り、うるめとタラコを焼いて、さあ夕食、というところに麻理が帰ってきて一緒に夕食。薩摩芋を蒸かして、仮眠。9時過ぎに仕事場に行って、メールとmixiを見る。それから、チェーホフの『熊』を読む。夫の死後、自分を裏切ったり放って置いたりした夫だったけど、その死を悼んで喪に服して静かに余生を送ろうとしている未亡人のところに、夫に貸した金を即刻返してくれという男が訪れて、明後日なら返せるといふ未亡人に、今日返せと迫り、罵ると、未亡人の方も「無礼者、熊」などと罵り返すと、男は決闘だといふ、女がそれを受けて立つ。とそこで、男は女のその態度にすっかる惚れ込んで結婚を申し込み、女も受け入れて二人は抱き合ってキスする。使用人たちもビックリという話。10時半廻って風呂に入る。出てから、草多が見ているテレビを見ながら、林檎1個、薩摩芋1切れ、角きんつば半分、煎餅1枚を食べ、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。

00:48:47 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-16

「愛を生ききる台詞 清水邦夫の戯曲について」のゲラを校了する。

15日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、「原始の自己」というタイトルで自己意識の源泉についての学説が紹介されていた。刺激に反応するだけでなく、内側からの動機が生まれてくるところから、生き残り競争に勝っていくという神経細胞システムが出来て、それが脳の中で進化していくところが書いてあったが、専門用語が出て来て分からなくなった。テーブルから見た窓の内と外の花を撮る。仕事場に行って、日録ノートしてから、多摩美の教え子がある大学の専任の教員になったというメールを貰い喜ぶ。当人たちにおめでとうのメールを送る。2時

頃、かき揚げ天ぷら蕎麦を作って昼食。仮眠。「はぐれ刑事純情派」を見る。3時過ぎコーヒーを淹れて飲む。仕事場へ行って、速達で送られてきた「愛を生ききる台詞 清水邦夫の戯曲について」の校正で直した後のゲラを見て、2カ所訂正して校了にする。5時半頃居間に行き、夕刊を見ながら「大相撲中継」を見る。栃東5連勝。6時半過ぎに、大根のみそ汁を作り、餃子を焼いて夕食。仮眠。一度見たNHKの時代劇を点けて眠る。9時過ぎに編集の大平さんに手紙を書いて、校了したゲラと一緒に封筒に入れて、ポストまで杖なしで歩いて出しに行く。脚に負担が掛かって痛くなるか試したが、膝下が重くはなかったが、それほど痛くはなかった。痛みはかなりよくなった。[テーブルから見た窓の内外の花](#)をBlosxomblogに入れる。それから、昨日見た『枇杷の実待ち』の感想を三浦淳子さんにメールで送る。11時廻って風呂に入ったが、風呂の湯加減のことで、麻理にちょっと荒げた言葉を投げて、風呂に入りながら反省。出てから、林檎1個、薩摩芋2切れ、煎餅小2枚を食べ、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。

01:10:48 - shirouyasu - No comments

### 2007-03-15

三浦淳子さんの映像作品『枇杷の実待ち』を見る。

14日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、単語から身体へという意識の流ればかりでなく、身体の運動から単語を意識するという流れもあると書いてあった。仕事場で日録をノートした後、[朝起きて一番に目について撮った庭の椿の花](#)を、Blosxomblogに入れる。それから、mixiなど見て、清水邦夫さんがエッセイで好きな作品として書いていたチェーホフの三つの一幕物の一つ『白鳥の歌』を読む。年取った役者が居眠りして寝過ごしてしまい、舞台に出たら、もう芝居は終わっていて、観客も役者も皆帰ってしまった後で、真っ暗客席の前に、自分を罵り、起きてきたプロンプターに若い頃の話をして、「ハムレット」や「オセロー」などの台詞を述べる内にどんどん興奮していく、という内容。他の戯曲の台詞が使われるなど、なるほど、清水さんの劇に通じるものがあると思った。1時半過ぎて、卵を落としたキノコ入りの蕎麦を麻理が作って一緒に昼食。仮眠。「はぐれ刑事純情派」は途中で眠る。3時頃、コーヒーを淹れて飲む。麻理に「清水邦夫全仕事」を図書館に返しに行き、郵便も出して貰う。それから、今朝届いた三浦淳子さんの4つの映像作品のテープのうちの『枇杷の実待ち』を見る。三浦さんの母校の70年経った、校庭に枇杷の木がある校舎と、その校舎が建てられた時に卒業した先輩の老婦人の半生とピアノ演奏を構成したドキュメンタリー作品だった。夕刊を見ながら「大相撲中継」の三役の取り組みを見る。栃東が四連勝。チェーホフの文庫の解説を読む。7時過ぎて、麻理がステーキを焼き、みそ汁と作って夕食。食後、ベッドでちょっと眠った後、「相棒」スペシャルを10時まで見る。仕事場に行ってWebなど見て、11時過ぎに風呂に入る。出てから、スポーツニュースを見ながら、林檎1個、薩摩芋1切れ、角きんつば半分、煎餅2枚を食べ、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。

01:06:07 - shirouyasu - 2 comments

### 2007-03-14

清水邦夫作『恋愛小説のように』を読む。

13日の朝、朝食を食べ、朝刊を見終わる頃、テレビが突然、高知空港の中継に変わって、飛行機が胴体着陸した。ホッとした。トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、単語はどれも身体と結びついていると書いてあった。少なくとも、発音のための筋肉とは結びついているということだ。庭に出て君子蘭の蕾を撮る。仕事場に行って、日録ノートする。Blosxomblogに[首を伸ばした君子蘭の蕾](#)を入れる。それから清水邦夫作『恋愛小説のように』（1989）を読む。途中で、2時頃、かき

揚げ天ぷら蕎麦を作って昼食。仮眠、「はぐれ刑事純情派」を見ていて、眠ってしまう。3時過ぎに起きて、コーヒーを淹れて飲む。仕事場に行って、『恋愛小説のように』を読み終える。5時半頃から、薩摩芋を蒸かし、カジキと大根を煮る。そしてジャガイモとワカメのみそ汁と作る。その間に、「大相撲中継」で朝青龍が勝つを見る。7時前に煮物とみそ汁で一人夕食。食後仮眠。V6が青森山田高校の運動部を訪れる番組。9時頃仕事場に行って、『恋愛小説のように』の筋書きを書く。この作品も書きにくい。内容は、叔父の七回忌と土地売却の承認のために、日本海沿いの廃駅の近くにある実家に帰ってきた、東京でシナリオライターをやっている中年を過ぎた清原道子が、実家の隣の家の長男で、東京で大学教授を定年で退官した森一とその廃駅で会う。二人の心に甦る子どもの頃の井戸の周りの思い出。売却する土地の境界線が思っていたのと違ってことから起こる、井戸を巡っての隣同士の家族の言い争い。そこに親密な感情が流れる。甥っ子の「あなた達は消え去る人間」という言葉から、思い出にこだわる道子と森一の親の世代と明日の生活を考える子の世代との言い争い。ここから、古い記憶が老いた森一と道子の心に愛情の泉をわき出させる。森一の心では、亡くなった妻のよしえと道子が重なる、というもの。「清水邦夫全仕事」の4冊は、明日図書館に返すので、清水さんの戯曲を読むのはこれで一応終わりにする。数えると48作品を読んだ。10時半廻って風呂に入る。出てから、林檎1個、薩摩芋1切れ、角きんつば半分、煎餅2枚を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。

00:35:49 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-13

去年の今頃のことを思う。

12日の朝、目覚めたときに去年の今頃は多摩美の映像演劇学科の入学試験に立ち会っていたのだと思う。庭には同じように黄色い水仙が咲いていた。朝食の後、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、意識は、「椅子」が座る行為と呼応するように、概念が身体のいろいろなところと呼応していることが書いてあった。[今日咲いたハイビスカスの花](#)を撮って仕事場へ。日録ノートとしてから、ハイビスカスの花をBlosxomblogに入れる。昨日読んだ『花のさかりに死んだあの人』の筋書きを書く。内容は、古本屋をやっていた父親が心臓発作で死んで、その父が息子の兄弟が知らなかった同年の女性と別の生活を持っていたと知って驚く。そして遺書にその女性にある金額の金を6回払いでやるように書かれていた。兄弟は先ずその女性の年齢に驚き、二人でその金額の小切手を持っていくことになる。二人で出掛けるが、弟は兄とはぐれてしまい、女のアパートに先に訊ねる。女のアパートには妹や親戚や近所の女たちが集まってうどん作り最中で、弟の訪れにみな別室に引っ込んで、女は弟に直面する。弟がテーブルの下にあった大きな包丁を拾い上げると、それは自分の家にあった包丁で、女の話では父が持ってきて、うどんの作り方をみんなに教えたのだという。兄は酔っぱらって倒れていたのを女の叔母さんが見つけて連れてくる。兄弟は女に小切手を渡し、父親のことを聞くうちに、女と父は共に心臓が悪く病院で知り合い、発作を起こした女を父が背負って病院に運んだのが切っ掛けで深い仲になったという。弟は母に頼まれて父がエロ写真の販売をしているような下品な男だと匿名の手紙を女に送ったことがあるが、父を憎みきれなかった。兄弟に見せた父親の姿と女に見せた姿とが全く違うことが分かる。兄弟にとってケチで卑しい父親が女たちにすてきな人だったのだ。「あたしたちは家族だった」「あの人は志なかばで死んだけど.....花のさかりだった」という女たちの言葉に兄弟は頭を抱えて混乱する、というもの。2時頃、麻理が麻理流のすき焼き丼を作って昼食。仮眠、「はぐれ刑事純情派」をうとうとしながら見る。3時過ぎにコーヒーを淹れて飲む。仕事場に行って、清水邦夫作『たそがれて、カサブランカ』（1989）を読み、6時半頃読み終わる。居間に行って、夕刊を見ながら、「大相撲中継」を見る。朝青龍が二連敗。夕刊に出ていた検索エンジン[想-IMAGINE Book Search](#)で「鈴木志郎康」を検索すると、[「浴室にて鰐が」の草稿](#)が10万円で

売られているのを見つけた。何処から流れ出たのだろう。7時半頃、肉と豆腐の入ったニラ玉とみそ汁で麻理と夕食。仮眠、半分うとうとして「ふくまる旅館」を見る。9時過ぎ仕事場へ。『たそがれて、カサブランカ』の筋書きを書く。この戯曲は筋書きが書きにくい。内容は、戦後彗星の如く現れて、彗星の如く消えていった、形態模写の天才<黄色いコブラ>にあこがれて、ボードビリアンになろうとする青年が、北の港町を訪ねて、彼が住む酒場「カサブランカ」に集う人々と出会うという話。酒場「カサブランカ」は市の文化財の候補になるような古い建物で、中年の兄弟が経営していたが今は閉店している。しかし、常連は毎夜集まってくる。青年はあこがれの<黄色いコブラ>と映画「カサブランカ」のハンフリー・ボガードと愛人が別れる場面を演じたり、夫と別れて東京から戻ってきた兄弟の妹の女優が<黄色いコブラ>と感情的に張り合う場面に立ち会ったりする。そこに老いた芸人の心情の帰伏が音楽のように流れていく。妹は追いかけてきた夫の元に戻る、というもの。10時半廻って風呂に入る。出てから、林檎1個、細くて小さい薩摩芋3切れ、角きんつば1個、煎餅2枚を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。

00:26:12 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-12

2週間振りに外に出て、ポストまで往復する。

11日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、意識の身体化と概念のカテゴリの関係が書いてあったが、よく理解できなかった。大平さんから「映像演劇No.2」に掲載される「愛に生ききる台詞—清水邦夫の戯曲について」のゲラ刷りが速達で送られてきたので、校正する。2時過ぎにキノコ入りに蕎麦で麻理と夕食。名古屋女子マラソンの凄い競り合いのゴールのところを見てから仮眠、眠る。4時前に起きて、コーヒーを淹れて飲む。校正のゲラを速達で送るためにポストまで歩いて往復する。2週間振りに外に出て道路を杖を突いて歩く。ちょっと左脚に負担が掛かる。仕事場に行って、昨日読んだ『いの猫ロリータはいま……』の筋書きを書く。内容は、日本海沿いの町立図書館の分室の書庫件閲覧室に、旅装の若い男女フミとトオルがふらりと入って来て、外の鴉の多いのに刺激されたフミは卒公でやった鴉の芝居をやってしまう。実は二人は予約した民宿の前まで行って、泊まるの止めてこの図書館に入ったのだ。客が逃げるのを見た民宿を経営する卷子は二人を追って図書館に来て、水など二人にサービスするが逃げられる。図書館の分室長のあすかは、卷子に兄に似たものを感じて、二人切りになるために、図書館員の山口君を閉め出して、子どもの時親に叱られて押入とか便所に閉じこめられた話をする。卷子が帰ろうとドアを開けると開かない。あすかは山口君に閉じこめられたと言って、急におかしくなって、ここは土蔵の中と言い、猫のロリータが出て来ないと言い、探し始めて、空耳だという卷子に対してだだをこねて移動式の書架を衝立にして閉じこもってしまう。そして、卷子を兄に仕立てて、過去の記憶の幻覚に入っていく。それは十六歳の時、好きな人への面当てに叔父と家出して、過って睡眠薬を飲み過ぎたのを、駆け落ち、心中未遂と騒ぎ立てられて、父親から土蔵に閉じこめられたということがトラウマになって、起こる幻覚なのだ。その時、兄が味方になってくれて、「おれたちは鴉だ」という手紙をくれたりしたという。更に山口君と酔っぱらって戻ってきたトオルとフミを巻き込んで、大芝居になり、あすかは詩のような言葉を叫んで失神して騒ぎは治まる。正気の戻ったあすかは卷子に兄に通じるものを感じて、半ば意識して演技的にやっていたという。しかし、卷子が帰った後も、あすかは幻の猫のロリータを探し、自分がロリータになったかのように書架の暗がりではる舞う、というもの。その後、『花のさかりに死んだあの人』(1985)を読み、7時前に読了。肉じゃがと納豆とみそ汁で麻理と夕食。ベッドに横になって、「ダーウィンが来た」「風林火山」「NHKスペシャル 介護から人材が逃げる」を続けて見る。給料が5年勤めて20万円以下と、余りにも安くてどんどん介護士の人が止めていく姿が語られていた。メールを書く。風呂に入る。出てから、林檎1個、角きんつば1個、煎餅ほぼ1枚を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサ

プリメント。仕事場に行って、[昼間入れ忘れた三つ目の椿の花](#)をBlosxomblogに入れる。それから、「灰皿町blog日記」を書く。

01:14:26 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-11

清水邦夫作『海賊、海を走ればそれは焰.....』と『救いの猫口リータはいま.....』を読む。

10日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、意識の「身体化」ということが書いてあった。スポーツとか自転車の乗り方とか、やってみなければ分からない。要するに「身体で覚える」というときの感じは言葉では伝えられない。仕事場に行って、日録をノートする。居間に行ってハイビスカスの花を撮る。それから、清水邦夫作『海賊、海を走ればそれは焰.....-九鬼一族流史』（1984）を読む。2時頃、きつね蕎麦を作って昼食。仮眠。テレビは点けたが見なかった。3時過ぎに起きて、コーヒーを淹れて飲む。仕事場に行って、[ハイビスカスの花](#)をBlosxomblogに入れる。『海賊、海を走ればそれは焰.....』の筋書きを書く。内容は、元海賊の湊ノ三郎五郎の兄弟が山に掛かった帆立雲を追って森の中に迷い込んで、雷に遭い、山門に逃げ込むと、そこに一人の男が逃げ込んでいた。九鬼一成というやはり元海賊の九鬼一族の一人で、男の話では一族は山の中に転封されて、沼に盲船といわれる潜水も出来る船を造って訓練しているという。三郎五郎はこの男を捕らえて、尼崎水道陣屋の殿様のところに連れて行くと、その男に一族がいるところに案内させて皆殺しにしろと命ぜられる。湊ノ一族と役人が行ってみると、山菜を採ったり、櫛の細工をする一家が棲んでいるだけ。盲船は一成の幻想だという。ただ、胸に傷のある一成の妻は、その傷がかつて五郎に切られた傷だという。湊ノ一族が油断していると一人が殺され、一成の妻に二人目が殺され、役人の手勢に、たちまち、五郎以外の、湊ノ一族も九鬼一族も全員が殺されてしまう。実は、殿様は役人に全部を殺せと命じていたのだ。最後に五郎は、霧の中で、後ろに迫ってくる一成の妻の幻影を斬り捨てる、というもの。山に棲む海賊とか、船の幻想に生きる男とか、過去のトラウマとかというところに清水邦夫戯曲の特色が出ていた。続いて、『救いの猫口リータはいま.....』（1985）を読み始める。途中、6時半頃、糸こんにゃく無しの肉じゃがを煮て、豆腐のみそ汁を作って、7時頃一人で夕食。仮眠。テレビを点けたが見なかった。9時過ぎに仕事場に行って、『救いの猫口リータはいま.....』の続きを読んで読み終える。10時半頃、筋書きは明日書くことにして、風呂に入る。出てから、林檎1個、芋羊羹2切れ、一口羊羹1個、煎餅2枚を、スポーツニュースなどテレビを見ながら食べる。薬とサプリメント。仕事場に戻って、「灰皿町blog日記」を書く。

00:05:39 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-10

清水邦夫作『ラヴレター』を読む。

9日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、著者とロボット学者との会話が書かれていた。学者はロボットは意識を持ったとしてもあくまでも人工物であって義足と同じようなものだと言っていた。庭の椿の萎れた花と蕾を撮る。メキシカンセージとアロエを鉋で切る。仕事場に行って日録をノートする。6日の記述が無く、一日ずれているのに気がつき、6日の分を書き込む。1時過ぎに麻理とかき揚げ天ぷら蕎麦で昼食。仮眠、「はぐれ刑事純情派」をうとうとしながら見る。3時頃起きてコーヒーを淹れて飲む。仕事場に行って、[枯れかかった椿の花と蕾](#)をBlosxomblogに入れる。それから、清水邦夫作『ラヴレター—愛と火の精神分析』（1984）を読む。6時半頃読み終わる。米を研いでいるところに麻理が帰ってきて、餃子を焼いて、ほうれん草を茹で、みそ汁を作って一緒に夕食。仮眠、眠る。9時頃起きて、仕事場へ。『ラヴレター』の筋書きを書く。内容は、浪人中の眩太

は妹の高校生の桃子、中学生の福子と、鉄道員の父が北陸の町の駅前ホテル北陽館の女主人りんと結婚したために、りんと義理の母と子ということになる。結婚した父は間もなく死んでしまう。りんにはさやかという精神病院に入院していて、しょっちゅう実家に帰ってきている妹がいる。そのさやか宛にたけしという弟からよく手紙が来る。実は、たけしは十五年前に海岸に流れ着いた機雷が爆発したとき死んでしまったということだが、りんとさやかはこの弟のたけしを非常に愛していたので生きていると思っている。眩太は、この姉弟関係の弟の位置に置かれ、男のように逞しい姉のりんと、繊細で優しい妹のさやかの愛情を受けるが、年を経た後に、俳優となって戻ってきた眩太がさやかを相手にした即興芝居を演じると、それを切っ掛けに、りんの心に埋もれていたたけしを挟んださやかに対する嫉妬と憎しみと愛情が噴出してくるのだった。そして、りんとさやかは、恋心を抱いた少女をさらって行くという伝説の蒼いはね馬にさらわれたかのように、真夜中のその場から消えてしまう。劇全体は、眩太の語りで進行する、というもの。10時半廻って風呂に入る。出てから、林檎1個、乾燥芋2枚、一口羊羹1個、煎餅小2枚を食べて、温めた牛乳を飲む。葉とサプリメント。仕事場に戻って、「灰皿町blog日記」を書く。

00:05:51 - shirouyasu - No comments

2007-03-09

清水邦夫作『戯曲冒険小説』と『戯曲推理小説』を読む。

8日の朝、トイレで読んで『脳と意識の地形図』には、意識の内容は脳と身体と環境の総合的なシステムによって決まると書いてあった。庭に出てクリスマスローズの花を撮って、仕事場に行って日録ノートする。それから清水邦夫作『戯曲冒険小説 一歳月よ、老いさらばえた姫たちよ』（1979）を読む。2時過ぎにかき揚げ天ぷら蕎麦を作って昼食。仮眠。テレビを点けて、うとうとしながら「はぐれ刑事 純情派」を見る。3時過ぎにコーヒーを淹れて飲む。仕事場に行って、[咲きそろうたクリスマスローズの花](#)をBlosxomblogに入れる。『戯曲冒険小説』を読み終えて、粗筋を書く。内容は、日本海沿岸のある街に住むハイヒールの万引きを修練する男がいる。彼は、南米の高地で珍しい魚を探している内に内乱の巻き込まれて死んだ冒険家の七つ年上の妻と結婚して、彼女が冒険家の伝記を書くのを手伝っている。ハイヒールの万引きをするのは、心の中に冒険心を生むためなのだ。この男と、靴屋の主人と、外套を着た冒険家の弟という男と、妻が実演しながら体験的に伝記を書いている土蔵に行く。そこで、冒険家がゲリラに捕まって尋問を受ける場面が、靴屋の主人が冒険家になって行われる。話題は、遠く妻と離れて愛の言葉を送ることで冒険に心を燃やす男と、夫の帰りを待って愛と憎しみを募らせていく女との心の行き違いになり、幻想的な鷲を殺して生き血を吸って若返りを図る土着の祭りになって一夜が明けて、外套の男は一番列車で旅を続け、靴屋は店の戻り、男は妻が待つ家に帰る。マルローの「王道」、デスノスの詩などからの引用がある。それから、『戯曲推理小説 一ローズマリーの赤ん坊のように』（1987）を読む。6時半頃、ホタテと白菜とキノコのバター炒めとワカメとジャガイモのみそ汁を作る。7時頃、それでテレビニュースを見ながら夕飯。仮眠。ベッドで8時からテレビの「新・京都迷宮案内」を見る。仕事場に行って、『戯曲推理小説』を読み終わり、筋書きを書く。内容は、一年前に女優清原ぎんの、やはり女優だった妹えりが自殺した、その市民劇場の同じ楽屋に、『欲望という名の電車』のランチを演じていた舞台上、えりのユレーイを見て相手役にぶつかって倒れたぎんが運ばれてくる。そして、ぎんにだけ見える亡霊のえりとぎんとの愛憎の籠もった会話が展開する。えりの死因について、はじめ、えりはぎんと口論していたとき、毒入りのワインで自殺した覚えはないといい、ぎんに殺されたのではないかと疑うが、話しているうちに、実はえりがぎんを殺そうとしたが、誤って自分で飲んでしまった分かってくる。そこに、今は俳優を辞めてしまったえりの夫冠が訊ねてきて、実はぎんを愛していたことが分かり、また冠と共にやってきた息子の小太郎が、一年前もこの楽屋を訪れて、えりとぎんが口論しているすきに、毒入りグラスを置き換えてえりが飲んでしまったのだと証言する。ぎんは幻聴に悩まされて公演が続行できな

くなる。劇団員は去っていく。冠がぎんを愛していた口になると、小太郎はナイフで冠を刺し殺す。最後は、ぎんと亡霊になった冠とえりとでチェーホフの『三人姉妹』のラストシーンを演じて終わる。女優の凄まじい情熱と嫉妬や憎しみが、えりの自殺と公演中止を巡っての対話に現れてくるという劇だった。10時半頃、風呂に入る。出してから、林檎1個、薩摩芋小1切れ半、一口羊羹1個、煎餅小1枚半を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。

00:08:10 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-08

清水邦夫作『わが魂は輝く水なり』を読む。

7日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、ロボットには無い身体感覚というものが書かれていた。ハイビスカスの花を撮って仕事場へ。日録ノーとして、catnetに電話する。日本橋近くにあった事務局が、幾つかのプロバイダーが統合されて今は島根県の出雲市になっている。電話に出た女性が丁寧に対応してくれて、サーバー内のメールが32MBになって、満杯ということでアクセスを拒否しているのが判る。それを消去してもらい、こちらのメイラーで、サーバー内のメールを削除という設定をしたら、スムーズに接続できるようになった。メールが復活した。2時頃、麻理がきつね蕎麦を作って昼食。仮眠、うとうと「はぐれ刑事純情派」を見る。3時過ぎにコーヒーを淹れて飲む。仕事場に行って、[ハイビスカスの花](#)をBlosxomblogに入れる。それから清水邦夫作『わが魂は輝く水なり』（1980）を読む。7時頃までに読み終える。7時過ぎに、麻理が買ってきたヒレカツ、コロツケなどとみそ汁で夕食。仮眠。「ためしてガッテン」と「相棒」を見る。仕事場に行って『わが魂は輝く水なり』の筋書きを書く。源平合戦の時代の話。北陸で平維盛と木曾義仲とが倶利伽羅の谷で合戦して、十万の平家は一万の義仲勢に負ける。その後の闘いで斉藤実盛と息子の亡霊になった五郎と平家を裏切る六郎の運命が描かれている。実盛は義仲が二歳の時、命を救った恩人だが、今は平家の軍勢に与して義仲と闘っている。息子たちは父の実盛の言葉で、義仲にあこがれて平家を裏切って義仲の軍勢に荷担するが、義仲は狂っていて、巴御前が義仲を名乗っている。五郎は巴御前の奸計で殺され、六郎も巴御前に唆されて義仲を殺そうとして見つかかり、平家に戻ってくるが殺されてしまう。実盛は夢の中で巴に魅せられて、若返ろうと五郎の亡霊と共に髪の毛を染め、顔を白塗りにして、湧いてくる水の音を聞きながら義仲勢に立ち向かう。血みどろの闘いとそれを越えた人が人に寄せる純粋な情を対比して描いている。劇団「民芸」のために書かれた作品ということ。11時前に風呂に入る。出してから、林檎1個、薩摩芋1切れ、芋羊羹1切れ、煎餅小2枚を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。

00:46:42 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-07

メールサーバーに接続できなくなり、あたふたする。

6日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、完全なロボットは不可能ということ、イギリスの小説家がロボット小説で示したということが書いてあった。まあ、ロボットは臨機応変が利かないということだ。昨夜の雨の中で咲いた水仙を撮る。仕事場に行って、日録をノートした後、メールを見ようとしたら

「接続に失敗しました ログインしようとしたときに、管理者またはほかのメールクライアントがアカウント“catnet”を使用していたため、このアカウントへのアクセスがメールサーバによって拒否されました。後でもう一度やり直してください。発生したサーバエラー：/var/mail/.srysys.pop lock busy! Is another session active?

(35)」

という警告が出て、catnetに接続できない。送信は出来る。で、常用しているeMacのmailに、別に持っているniftyのアカウントを設定しようとしたら、これも接続できない。miniMacではniftyに接続できるが、catnetには接続できない。eMacとminiMacの間を行ったり来たりして2時廻って、厚揚げの煮込み蕎麦を作って昼食。仕事場から台所に行くとき、今まで力が入らなかった右脚で、階段を3段だけ登れた。仮眠、うとうとしながら「はぐれ刑事純情派」を見る。3時廻って起きて、コーヒーを淹れて飲む。仕事場に行って、[昨夜咲いた水仙](#)をBlosxomblogに入れる。平田オリザ著『演劇入門』を読んで、6時半頃読み終わる。俳優と演出家の関係のところ、人間はそれぞれ独自の「言葉のコンテキスト」と「身体コンテキスト」を持っていて、演出するということは、そのコンテキストを摺り合わせることで書いてあった。つまり、コンテキストを共有するというのが演劇で、それが民主的な社会の形成に役立つということだった。餃子を焼いて、長ネギのみそ汁を作って、7時半頃夕食。テレビで、抗生物質が効かない「多剤耐性緑膿菌」のことが語られていた。仮眠。バラエティ番組を眠りながら見る。9時廻って仕事場へ。Webで平田オリザを検索して劇団「青年団」のHPなどを見る。再びメールに挑戦したが、今のところ接続できない。mixiをやっている人はmixiのメッセージで連絡して欲しい。風呂に入る。出たら、林檎1個、薩摩芋1切れ、芋羊羹1切れ、煎餅小2枚を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。

01:19:32 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-06

平田オリザ著『演劇入門』を読む。

5日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』は、第6章「意識する身体」に入った。先ず人間の脳に匹敵するロボットを作ることは不可能であると書かれていた。仕事場に行って日録ノート。平田オリザ著『演劇入門』を読み始めたところに、野々歩とネムちゃんが来た。ちょっと話したりする。1時過ぎに帰って、麻理が玉子丼を作って昼食。仮眠。3時過ぎコーヒーを淹れて飲む。風で倒れた水仙を撮る。書肆山田の鈴木一民さんから電話があった。『演劇入門』を読む。米を研いで炊飯器のスイッチを入れて、仕事場に戻って[倒れて水仙](#)をBlosxomblogに入れる。窓の外は激しい雨風。テーブルで夕刊を見ている間に、麻理がハンバーグを焼いて、7時半頃一緒に夕食。仮眠、うとうとしながら、NHKテレビ「鶴瓶の家族に乾杯 - 青森県五所川原市 - (後編)」を見て、20分ぐらい眠る。仕事場で『演劇入門』を読む。演劇を技術として扱っている。「場所」「背景」「問題」「登場人物」「プロット」「エピソード」「台詞」と順を追って書き進めるように書いてあった。「プロット」は人物の出入りで、1シーンは2分以内という指摘はなるほどと思った。「台詞」のところでは、日本語では「対話」が困難なことが力説されていた。ここまでで3分の2ちょっとまで読んだ。風呂に入る。出たら、林檎1個、薩摩芋1切れ、串団子半分、醤油煎餅小2枚を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書く。

00:29:31 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-05

多摩美の卒業生の野上絹代さんが訊ねてきた。

4日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、言葉は経験を運び、思考の元になり内面世界を構築するが、経験が言葉に納まると、感覚が落ちてしまうということが書いてあった。花瓶の萎れた椿の花を撮って仕事場に行き、日録をノートする。mixiで多摩美の卒業生に野上さんが相談したことがあるので会いたいとメッセージが来ていた。メールの遣り取りをして今日の5時半に来て貰うことにした。麻理と部屋の中をちょっと片付ける。清水邦夫著『ステージ・ドアの外はなつ

かしい迷路』を読む。1時過ぎにかき揚げ天ぷら蕎麦で昼食。ベッドに横になって琵琶湖マラソンの中継を見る。3時過ぎにコーヒーを淹れて飲む。仕事場に行つて、[花瓶の萎れた椿の花](#)をBlosxomblogに入れる。清水さんのエッセイ集を読む。5時半に野上絹代さんが来る。彼女は現在進行中の映像演劇学科の共同研究の「清水邦夫先生退職記念イベント」の『イエスタデイ』の演出をするに当たって、ちょっと引っかかっているところがあるので、話したいということだった。彼女が清水邦夫さんの戯曲を余り読んでなというので、わたしが考える清水さんの作品の流れを説明した。『イエスタデイ』は写真館の話だが、他にも写真館を題材にした戯曲はあるというような話もした。7時過ぎに野上さんは自信が出て来たといつて帰っていった。その後、麻理が帰ってきて、肉じゃがとみそ汁で一緒に夕食。食後、ベッドに横になって、「風林火山」を見て、続けてNスペの「歌麿 紫の秘密」を見た。仕事場に行つて、『ステージ・ドアの外はなつかしい迷路』を読み終える。外国旅行のこと、作品の背景について、楽屋など舞台関係のこと、宇野重吉が亡くなつての追悼文や思い出、新聞に連載した世相の移り変わりに戸惑いながら楽しんでいることなどが書かれていた。11時前に風呂に入る。出てから、林檎1個、薩摩芋1切れ、かりんとう少々、煎餅小2枚を食べて、温めた牛乳を飲む。それから薬とサプリメント。今日の脚の痛みは昨日とちょっと違う。仕事場に行つて「灰皿町blog日記」を書く。

00:49:27 - shirouyasu - No comments

### 2007-03-04

清水邦夫著『ステージ・ドアの外はなつかしい迷路』を読む。

3日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、顔を記憶する過程が書いてあった。認知された顔のイメージと名前は別々に連合野から海馬に送られて、外から刺激が入ってこない睡眠中に符号化されて、名前とイメージが結びつき、連合野にフィードバックされて、そこで結びつきが出来て再び海馬に送られて記憶として固定されるということだ。庭に出て、水仙の花を昨日撮ったのと反対側から撮る。仕事場に行つて日録ノートする。それからエッセイ集清水邦夫著『ステージ・ドアの外はなつかしい迷路』を読み始める。2時頃、ワカメのみそ汁を作って、昨夜の炒め物の残りで昼食。仮眠。うとうとしながら久しぶりにベートーベンの交響曲第5番を聞く。3時半ごろコーヒーを淹れて飲む。仕事場に行つて、[角度を違えて撮った水仙の花](#)をBlosxomblogに入れる。『ステージ・ドアの外はなつかしい迷路』を続けて読む。6時頃、肉じゃがを煮る。始め使った鍋が小さすぎて途中から大きい鍋に移す。7時頃、肉じゃがとみそ汁で夕食。テレビを点けてほとんど見ないでうとうとする。8時半頃麻理が帰ってきて、おばあちゃんのところからの帰途に立ち寄った、加圧リハビリをやっているという井上クリニックの様子を聞く。清水さんのエッセイ集を読む。10時過ぎに風呂に入る。出てから、林檎1個、薩摩芋1切れ、栗落雁1枚、ごま煎餅1枚、醤油煎餅1枚を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。脚の痛みはやや腰の方に移った。日によって違う痛みになる。仕事場に行つて、「灰皿町blog日記」を書く。

00:07:04 - shirouyasu - No comments

### 2007-03-03

確定申告の資料を税理士事務所へ送る。

2日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、睡眠は脳の網膜体と視床皮質系の神経伝達物質が関係していると書いてあった。神経伝達物質によって興奮性の神経細胞が弱まると眠くなるということだ。四つ咲いた水仙の花を撮って、仕事場に行く。日録ノートしてから、昨年のがス、電気、水道料金を預金通帳から書き出し、収入と支出の表を作って、支払調書や領収書などと大きな封筒に入れて、麻理に郵便局からもう何十年も頼んでいる税理士事務所へ送って貰う。別の加圧リ

ハビリをやっている幾つかの病院のホームページを見る。2時過ぎに、郵便局から帰った麻理がかき揚げ天ぷら蕎麦を作って昼食。仮眠。テレビの何かドラマを途中からよく分からないままに、半分眠りながら見る。4時近く起きて、コーヒーを淹れて飲む。仕事場で、[四つ咲いた水仙の花](#)をBlosomblogに入れる。清水邦夫さんに戯曲について文章を書いたという手紙を書いて、出掛ける麻理に投函を頼む。居間に行って、テレビのニュースを見たり夕刊を読んだりする。7時前に麻理が作ったニラと肉とキノコと納豆と卵の炒め物とみそ汁を温めて夕食。仮眠。NHK「迷宮美術館」をほとんど眠りながらやや夢のように見る。仕事場に下りて、「大腿骨頭壊死」になって加圧リハビリをやっている人のHPを読む。そこに手術した人の結果に対するアンケートの集計が出ていた。手術の後。走れる人もいるが、杖を突いている人がけっこういる。10時半を廻って風呂に入る。出てから、林檎1個、栗落雁小2枚、かりんとう小2個、煎餅中1枚小半分を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に下りて、「灰皿町blog日記」を書く。

01:09:13 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-02

確定申告の資料を整理する。

3月1日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、経験の抽象化ということが書かれていた。抽象化されることで持ち運びが容易になり、他の概念と結びつくことができるというのだ。日向に花開いているカタバミを撮る。仕事場から領収書などが入った箱を居間のテーブルに持ってきて、区分けして整理する。ごちゃごちゃに入っているからけっこう時間が掛かる。2時頃、かき揚げ天ぷら蕎麦を作って昼食。仮眠。今日もうとうとしながら「はぐれ刑事純情派」を見る。3時過ぎて居間に戻って整理を続ける。タクシーの領収書が多く、月別に分けてみる。昨年の3月は多摩美の帰りに呑む機会が多かったからか毎日のようにタクシーで帰っていた。6時前に、疲れて休憩。コーヒーを淹れて飲んで、夕刊を見る。Blosomblogに[五つそろって咲いたカタバミの花](#)を入れる。7時過ぎに、アジフライとコロケを温めて、長ネギのみそ汁と作って夕食。仮眠。敬語の番組で井上ひさしが敬語をやめた方がいいと言っていた。「新・京都迷宮案内」を見て、居間に戻って領収書の金額を電卓で計算する。1年間でタクシー代が20万を越えていた。10時半廻って風呂に入る。出てから、林檎1個、薩摩芋1切れ、一口羊羹1個。煎餅小2枚を食べて、温めた牛乳を飲み、薬とサプリメントを呑む。仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。

00:19:45 - shirouyasu - No comments

## 2007-03-01

「愛を生ききる台詞—清水邦夫の戯曲について」を大平さんに送る。

2月28日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、眠っている間に海馬から皮質にフィードバックされた経験が記憶に刻まれると書いてあった。夢は古い経験と新しい経験がランダムに接続されて起こるとのことだ。[水仙が咲いた](#)ので撮る。書き上げた「愛を生ききる台詞—清水邦夫の戯曲について」をプリントして読み返して手を入れる。最終的に20310字、400字詰め原稿用紙にして51枚になった。かき揚げ天ぷら蕎麦で昼食。仮眠。うとうとしながら「はぐれ刑事純情派」を見る。3時過ぎにコーヒーを淹れて飲む。仕事場に行って、原稿をWordで縦組みにして大平さんにメールで送る。それから縦組みの原稿をプリントしてみると、罫線が横のままなので、縦線に変換して、多少訂正もして、訂正版の原稿をもう一度大平さんに送る。水仙の花をBlosomblogに入れる。7時頃、麻理が買ってきたトンカツとみそ汁で夕食。ベッドの横になって、サッカー日本対香港を見る。9時から「相棒」を見る。10時過ぎて風呂に火をつけて、仕事場に行き、机の廻りに散らかっていた原稿を書くのに使ったコピーやメモを整理する。この原稿を書く

のには、足腰の痛みがひどくなって、外出しないで、他のこともしないで、清水邦夫さんの戯曲に集中できたのがよかった。戯曲はまだ読んでないがあるので、図書館の返却日まで読めるものは読もうと思う。11時過ぎて風呂に入り、出てから、スポーツニュースを見ながら林檎1個、薩摩芋1切れ、一口羊羹1個、煎餅小2枚を食べ、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に下りて、「灰皿町blog日記」を書く。これで、2月は終わる。

00:43:26 - shirouyasu - No comments